

## ドイツ学術情報 (2013年4月～6月)

### < 目次 >

- 1 ピックアップニュース …p1
  - ① エラスムス計画で過去最高の国際流動性を達成
  - ② 連邦政府は研究開発の推進を継続
  - ③ 第2回グローバルリサーチカウンシル年次会合を開催
  
- 2 その他のニュース …p2
  - ① 大規模学術基盤のための新ロードマップ
  - ② 研究、イノベーション、技術能力に関する2013年報告書
  - ③ エネルギーシフト国内研究プラットフォームが発足
  - ④ ボローニャ・プロセスに関する教員の満足度調査
  - ⑤ 生涯学習のためのドイツ資格フレームワーク(DQR)
  - ⑥ 幹細胞研究者のネットワークを創設
  - ⑦ 13の新たな重点プログラムを開始予定
  - ⑧ ベルリンで留学フェアを開催

### 1 ピックアップニュース

#### ① エラスムス計画で過去最高の国際流動性を達成

ドイツ学術交流会(DAAD)は、学生の国際流動性が2011/2012年に最高水準を記録したと発表した。前年より3000人多い3万3000人を超えるドイツの学生が、エラスムス計画によってヨーロッパ32か国で短期留学やインターンシップを経験した。また、約4000人のドイツ人研究者および大学関係者が、エラスムス計画で外国に滞在した。

同年、外国のパートナー機関からは3万人以上が勉学のため、教鞭をとるため、あるいは職業教育を受けるために、ドイツの大学に所属した。

エラスムス計画は世界的に著名な流動促進プログラムであり、ドイツの325の大学を含むヨーロッパの3000以上の大学において、国際化のための重要なプログラムである。

DAAD HP

<https://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2013/23359.de.html>

## ② 連邦政府は研究開発の推進を継続

連邦政府は研究開発を推進する政策を一貫して継続する。2013年連邦政府は研究開発に計144億ユーロを投入。これにより2005年以降ほぼ60%増額したことになる。

2005年から2013年の間に連邦政府のプロジェクト助成費は93%増加し、72億ユーロに達した。これにより、エクセレンス・イニシアティブ、エネルギーと環境のための研究、先端クラスターコンペティションなどの大規模プロジェクトの実施が促進された。

研究、開発、イノベーション、教育の最近の進展に関する詳細な数値は、BMBFのデータポータルサイト([www.datenportal.bmbf.de](http://www.datenportal.bmbf.de))で閲覧できる。

BMBF HP

<http://www.bmbf.de/press/3451.php>

## ③ 第2回グローバルリサーチカウンシル年次会合を開催

ドイツ研究振興協会(DFG)とブラジル国家科学技術開発会議(CNPq)の共催により、5月27日から29日まで、第2回グローバルリサーチカウンシル(GRC)年次会合がベルリンのブランデンブルク科学人文学アカデミーで開催された。世界各国から約70の学術研究振興機関の長が出席し、研究発表へのオープンアクセス、ならびにリサーチインテグリティ(研究規範)の原則について議論した。会議の成果として、「オープンアクセス行動計画」と「リサーチインテグリティ原則のハイレベル声明」が採択された。第3回年次会合は2014年に中国の北京で開催される予定。

参考資料

1) DFG HP

[http://www.dfg.de/en/service/press/press\\_releases/2013/press\\_release\\_no\\_17/index.html](http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2013/press_release_no_17/index.html)

2) Global Research Council HP

<http://www.globalresearchcouncil.org/>

## 2 その他のニュース

### ① 大規模研究基盤のための新ロードマップ

ヨハンナ・ヴァンカ連邦教育研究省大臣は4月29日、研究基盤のためのBMBFロードマップを発表した。このロードマップは、たとえば大型研究のための大規模実験や情報設備、研究支援施設など、長期間にわたる研究基盤の整備について、国内及び国際的な基準で政策決定を行う際に活用するものである。BMBFは2011年に、試験的プロジェクトにおける大規模研究基盤計画の構想を調査するよう、学術審議会に依頼していた。BMBFは、調査対象となった研究基盤のうち次の3件をBMBFのロードマップに取り入れ、資金提供を行う方針である。

- (1) チェレンコフ望遠鏡の設置
- (2) 新しい生物学的活性物質の研究開発に向けたプラットフォーム
- (3) 大気データ取得のための民間旅客機の活用

BMBF HP

<http://www.bmbf.de/press/3442.php>

## ②研究、イノベーション、技術能力に関する2013年報告書

研究・イノベーション専門家委員会(EFI)は2月27日、ベルリンにおいてアンゲラ・メルケル首相と連邦教育研究省ヨハンナ・ヴァンカ大臣に「2013年研究、イノベーション、技術能力に関する報告書」を提出した。この委員会は報告書において、ドイツの研究及びイノベーション政策の国際的評価が高いことを示している。

研究と開発のための国内総支出は、2005年から2011年の間に34%近く増加し、748億ユーロに達した。このうち、2011年の連邦政府支出は133億ユーロであった。これにより、ドイツは国内総生産の3%を研究開発に支出するという目標を概ね達成した。EFIの専門家は、2020年に国内総生産の3.5%を研究開発予算として確保するよう要求している。

参考資料

BMBF HP <http://www.bmbf.de/press/3420.php>

EFIの報告書 <http://www.e-fi.de/index.php?id=9&L=1>

## ③エネルギーシフト国内研究プラットフォームが発足

ドイツでは現在、180以上の大学と120の研究センターや研究機関がエネルギーシフト(Energiewende)に関する研究を行っている。連邦教育研究省のヨハンナ・ヴァンカ大臣は3月4日、学術機関の代表者等と共に、エネルギーシフト国内研究プラットフォームの発足について発表した。

このプラットフォームの形成によって、個々の研究活動を統合することを目指す。

BMBF HP

<http://www.bmbf.de/press/3421.php>

関連情報 (エネルギーシフトリサーチフォーラム)

<http://www.bmbf.de/en/12337.php>

## ④ボローニャ・プロセスに関する教員の満足度調査

「ボローニャ・プロセスの目標には共鳴するが、実践には改善の余地があると感じている。」

カッセル大学高等教育研究国際センターが2011-2012年に行ったドイツ国内の高等教育機関の教員に対する調査によれば、大半の教員が、学部教育において教育の質を向上させ、国際的な流

動性を高めることが重要であると認識していた。一方で、指導と学習における変化について、過半数の教員が不満を示した。高等学校のような指導法や、教育研究において個人の自由が制限されることに対する批判も見られた。

ドイツ大学長会議の H. Burckhart 副会長は、今回の結果や教員からの改革の提案は、ドイツ大学長会議における大学改革のワーキンググループにおいて具体化することを表明している。

HRK HP

<http://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/open-to-change-but-still-critical-study-examines-teacher-satisfaction-with-the-goals-and-implement/>

#### ⑤生涯学習のためのドイツ資格フレームワーク (DQR)

連邦政府と州政府は「生涯学習のためのドイツ資格フレームワーク(DQR)」導入の共同決議に署名した。これにより、ドイツで取得した学位と職業資格が、将来的にヨーロッパで広く活用でき、より比較しやすくなる。

この決定によりDQRの基礎が築かれたことになり、2013年夏より取得した資格は段階的にDQRレベルに分類され、DQRレベルは資格証明書で証明される。例えば、最初の3年の職業訓練はレベル4に分類され、学士の学位やマイスター、技術者はレベル6相当とされる。

EU内の応募や転職は、DQRによりかなり容易になる見込みである。

詳細情報は次のサイトから入手できる。 [www.deutscherqualifikationsrahmen.de](http://www.deutscherqualifikationsrahmen.de)

BMBF HP

<http://www.bmbf.de/press/3456.php>

#### ⑥幹細胞研究者のネットワークを創設

マックス・デルブリュック分子医学センター(MDC)の幹細胞生物学者、ダニエル・ベッサー氏は5月7日、ドイツの幹細胞(Stammzell)研究者による「ドイツ幹細胞ネットワーク」を創設したと発表した。同ネットワークの目的は、幹細胞研究者の連携と若手研究者の育成である。会員は大学や研究機関に所属する12名の幹細胞研究者で、ボン大学のオリバー・ブリュストル氏が会長に選出された。

ブリュストル会長は、このネットワークを国際的に拡大し、専門グループも設置する意向である。連邦教育研究省はこのネットワークの活動に対し30万ユーロを助成する。

参考資料

1)dpa(ドイツ通信)-Dossier Bildung Forschung Nr. 20/2013 13 May 2013

2)MDC HP

[https://www.mdc-berlin.de/40940233/20130507-deutsches\\_stammzellnetzwerk\\_gegrundet](https://www.mdc-berlin.de/40940233/20130507-deutsches_stammzellnetzwerk_gegrundet)

### ⑦13の新たな重点プログラムを開始予定

ドイツ研究振興協会(DFG)は3月の理事会において、合計13の新たな重点プログラムの実施を決定し、2014年初めに開始することとなった。これらのプログラムは人文学、社会科学、生命科学、自然科学、工学など、全ての分野を対象としている。研究は極めて学際的で、革新的な手法を採用するものとなる。今後数か月の間に、13のプログラムに関する申請を受け付け、学術的な質と社会一般の問題解決という観点から厳密な審査を行う。最初の3年間に、プログラム全体で6400万ユーロが支給され、原則として6年の期間にわたり支援される。DFGは2014年以降、これら13のプログラムを含め、合計90の重点プログラムを支援することとなる。

DFG HP

[http://www.dfg.de/en/service/press/press\\_releases/2013/press\\_release\\_no.05/index.html](http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2013/press_release_no.05/index.html)

### ⑧ベルリンで留学フェアを開催

2013年5月3-4日、ベルリンのロシア科学文化会館(Russisches Haus der Wissenschaft und Kultur)において、ドイツ連邦教育研究省(BMBF)とドイツ学術交流会(DAAD)の協力・支援により、第8回Study World 2013が開催された。Study Worldは2006年に始まり、今年で8回目の開催となる。欧州各国、ロシア、米国、日本等の各大学やDAADなどの学術振興機関等によるブース展示・相談対応と、これらの大学・機関によるセミナーや概要説明が、同時並行で行われた。

在ドイツ日本大使館は日本留学の総合案内のためのブースを設け、来訪した学生の相談に対応するとともに、日本の各大学、日本学生支援機構、日本学術振興会、国費留学の概要等の資料を展示・紹介した。

主な参加者は、ドイツ全国の大学学部生、大学院生、高等学校最終学年、若手社会人などで、海外留学に関する情報を得られる機会となった。

Study World HP

<http://www.studyworld2013.com/>

ぼんぼん時計第40号  
日本学術振興会ボン研究連絡センター  
JSPS Bonn Office  
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)  
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)  
Phone +49(0)228-375050 Fax +49(0)228-957777  
www.jsps-bonn.de